

議会だより

2024.5.25 No.210

もくじ

表紙	大賀郷小学校訪問
2P	令和6年 第一回定例会
3~12P	一般質問
13P	島内視察
14P	質疑
15P	条例改正案否決ほか
16P	八丈島のパン屋さん



新一年生 交通安全指導の様子



大賀郷小中一貫シンボルキャラクター
ええたばちゃん

大賀郷小学校

4月8日の入学式で、新一年生20名を前に高木孝裕校長はご自身の体験を通してスピーチ。

「小学生の時、僕の夢は学校の先生になることです！って言ったら、みんなに笑われた。僕には：ぼ、ぼ、僕は：って言う吃音があったから：」

大人も感動しましたが、素直な児童たちはもっと感動したはずです。失敗しても、諦めなければ夢は叶うと。

感動のままに、入学式の最後には大賀郷小学校校歌（作詞・光山樹太郎、作曲・團伊玖磨）を力一杯歌っていました。（山下則子）



難しい課題にも向き合った議会

新年度当初予算案を可決

中之郷埋立処分場の火災と事後処理、人材不足の原因と対策、サステナ事業の説明不足など多くの課題を抱えての新年度予算審議となった。議会は、町の対策に対する不備を指摘すると同時に提案も行った。

町長により令和6年度に向けた施政方針が示された。まず、中之郷の埋立処分場の火災に対するお詫びの言葉が述べられ、来年度の主な事業の説明があった。また、今年度多くの職員が退職したことへの対策も約束した。

令和5年度補正予算では、コロナ禍が5類に移行したことによる、事業の再開やイベントの復活、歴史民俗資料館の改修工事の本格始動、離島留学制度のホストの確保、島外医療通院交通費補助の増額などの報告があった。

一般質問には10人が登壇し、職員不足と育成、離島留学、消防、サステナ事業などテーマは多岐におよび、踏み込んだ質問内容と

なった。

令和6年度予算については、グリーンセンターの建設終了による減額などで一般会計は約99億円になり、介護保険については第9期保険料の基準額が示された。地域包括支援センターが人員不足のため養和会から新たに「櫻壽会」に委託されたことや、サステナ事業については、クジラ観光と漁業との連携の必要性や救命艇の課題が指摘された。また、畜産DX事業への要望、伐採木の今後の処理についての意見・質問が出された。町営住宅の空き室や温泉の老朽化対策なども話題に上った。令和6年度の予算は一般会計、特別会計、企業会計ともに原案通り可決された。

議会最終日には、令和5年度最終補正の報告に続いて、いくつか条例改正案が上程されたが、そのうち教育長などの報酬の減額については反対多数で否決された。その後の全員協議会では、民俗

資料館の耐震改修工事や工程の内容説明、オリックスによる地熱の掘削作業が遅れている理由

の説明があった。消防長からは埋立処分場の火災鎮火（3月27日）が報告された。（奥山幸子）

主な議決事項

3月定例会

- 令和6年3月5、18、21、28日
- ◎令和5年度八丈町一般会計補正予算ほか補正予算7件
- ◎東京都後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約
- ◎公営住宅整備事業弼倉団地建築工事請負契約ほか契約1件、契約の変更4件
- ◎人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- ◎令和6年度八丈町一般会計予算ほか予算7件
- ◎八丈町手数料条例の一部を改正する条例ほか条例6件
- ◎議員の派遣承認について（令和6年度東京都町村議会議員講演会）ほか派遣承認4件
- ◎八丈町辺地総合整備計画の策定について

主な会議事項

全員協議会

- 令和6年2月7、16日、3月5、28日
- ◎令和6年度事業計画について
- ◎常任委員会における所管事務調査について
- ◎伐採木の処理に係る特別委員会
- ◎町制施行70周年記念行事について
- ◎東京宝島サステナブル・アイランド創造事業について

- ◎歴史民俗資料館展示実施設計について
- ◎地熱発電所建設の進捗状況について

議会運営委員会

- 令和6年2月27日、3月14日
- ◎第一回八丈町議会定例会について
- ◎第一回八丈町議会定例会（一般質問）について

総務文教委員協議会

- 令和6年2月28日
- ◎今後の総務文教委員会のあり方について

経済企業委員協議会

- 令和6年2月29日
- ◎今後の経済企業委員会のあり方について

総務文教委員会

- 令和6年3月5日、4月16日
- ◎総務文教委員会における所管事務調査について
- ◎介護保険制度の八丈町の介護現場への影響について

経済企業委員会

- 令和6年3月5日、4月10日
- ◎経済企業委員会における所管事務調査について
- ◎旧末吉小学校の利活用に関する調査について

一般質問

3月18日 質問者10人

各質問者の録画映像はインターネットでご覧いただけます。掲載文中、表現が硬くなっている部分があります。ご了承ください。



議員 山下 則子 やました のりこ

町制施行70周年記念行事について

町制施行70周年にあたり、昨年、町は広く住民の意見を聞くために、アンケートを実施した。そこで、次のことを伺う。

問①アンケートの回答は17件あったと聞いたが、記念行事に取り入れたいと考えているものは何件あったか。また、アンケートのなかで記念行事などに

反対意見はあったか。

②町が70周年記念としてコンセプトとするものは何か。

③実行委員会は立ち上げたのか。

④記念行事の中に、毎年行っている團伊玖磨記念コンサートを70周年記念としてオペラタ鶴公演を行い、予算が1500万円余と聞いた。それなりに金額がかかるのは私にも理解できるが、町民が納得し心から楽しめるために、今後町民へのていねいな説明をお願いしたい。町の考えは。

答 総務課長 ①17件のアイデアがあり、その中で写真集の発刊、写真展、ロベレニくんや島のロゴ作成についてのアイデアがあった。アイデア全てが実現

とはならないが、町勢要覧記念誌やロベレニ君70周年記念ロゴ作成を実施予定。他のアイデアについても、今後の参考とする。また、記念行事に対するメールや電話での反対意見はなかった。

②記念事業については、歴史と文化を継承し未来へ繋げていくために、町民がイベントなどに参加して70周年を一緒に祝い、盛り上げるものにした。

③庁内において実行委員会は立ち上げてはいないが、庁議の中で検討し事業の選定は行った。記念事業については、各担当課において進めていく。

答 教育課長 ④54回目の團伊玖磨メモリアルコンサートを町政施行70周年記念事業として、令和7年の3月15日に公演予定。演目は「夕鶴」でフルオーケストラと第一線で活躍するプロのソリストを招き、そこに島内小中学校の児童・生徒が公演に参加する。また、小中学生を招待して、「夕鶴」の鑑賞教室を行う。町制70周年記念事業と

して「夕鶴」公演を行う趣旨を広報やホームページ、SNSを通して、ていねいに説明していく。

学童クラブに昼食提供を

問 八丈町では「とびっこ」という学童クラブを運営している。働く保護者にとっては大変に助かる制度だと思う。

夏休みなどに町が弁当などを配給し、保護者が意欲的に仕事に励めるようにしてもらいたい。町の考えを伺う。

答 福祉健康課課長補佐 現状の町の実施体制で対応するのは難しい状況と考える。「長期休業中に事業所として昼食を提供している放課後児童クラブ数」については、こども家庭庁の調査結果によると、令和5年5月1日時点で、自園調理が18%、宅配弁当などの外部からの搬入が75%となっている。

今後、他の事業所の事例などの情報収集をしていきたい。



あさぬま きよたか 議員
浅沼 清孝

シルバー人材センターの 労働環境の改善を

図 作業中にけがをした場合、損害賠償や賃金の補償について八丈町から支援できないか。

〔答〕福祉健康課長 八丈町シルバー人材センターは、八丈町とは独立した公益社団法人であるが、その運営に必要な人件費や事務費などの経費について、東京都と町がそれぞれ2分の1ずつ負担する形で補助金を交付し、運営を支援している。

シルバー人材センターを通じて就業にあたっては、通常の雇用関係ではなく、基本的には会員一人一人がシルバー人材センターとの間に請負や委任の契約を結んで就業する形態となるた

め、労働者には該当せず、労働基準法や労働安全衛生法が適用されないということになる。

シルバー人材センターでは、シルバー総合保険制度として、会員が就業中に傷害などを被った場合に補償を行う「シルバー人材センター団体傷害保険」に必ず加入しているので、制度に基づき1日いくらかという通院保障や入院保障、1つの事故につきいくらかという死亡・後遺障害・手術保障が給付されることになっているが、労災保険には加入していないので、労災保険に定める休業補償などは支給されない。

「作業中のけがに対する損害補償や賃金の補償について八丈町から支援を」ということに關しては、町と雇用関係のないシルバー会員の方に、町が補償を行うことはできないが、シルバー会員が加入している「シルバー総合保険制度」に基づく「団体傷害保険」や「賠償責任保険」の掛け金は、都と町から交付している補助金の補助対象となっていて、その一部を補助

しているもので、そのような形で支援を行っていると、ご理解願う。

けがの治療費などについては、労災と異なり国民健康保険などの保険証が使えるので、高額医療費制度を利用できる。生活資金に関しては、八丈支庁の中に生活困窮者の相談や支援の窓口があるので、こちらを通じて公的支援の制度などをご相談してもらおうという方法が良いかと思う。

〔問〕温泉の清掃作業は、高齢者にとって負担が重すぎると聞いているので、今後継続できるか心配している。高齢者に見合った作業となるよう、作業内容を検討してもらえないか。

〔答〕町営温泉施設は開業以来約30年間ほとんど変わらず、必要最低限の作業内容でシルバー人材センターに委託してきているので、新たなきつい作業が増えたということはなく、反対に必要な作業を減らすというのも難しい状況。

温泉施設で就業している会員

個人個人の体調や体力の変化により、従来通りの作業がきつく感じるようになっていくということであるのか、あるいはシルバー側の設定するひとり当たりの作業量に変化したということであるのか。いずれにしても、シルバー会員の就業内容について町から指図することはできないので、温泉業務に従事しているシルバー会員と、町が温泉業務を委託しているシルバー人材センターとでよく相談し、会員さんの力量に見合った、就業先の変更、あるいは高齢者に見合った作業内容となるような作業分担や人員配置の見直しを検討してもらうことになる。

本件については、シルバー人材センター側とも課題を共有し、改善を促していく。



おくやま さちこ 議員
奥山 幸子 議員

町職員の労働環境の改善について

昨年、多くの町職員が退職した。そのことも大きな問題だが、その後抜本的な改善策がとられていないので、今後の行政運営が心配になる。

問 今、町職員は何人で何人不足しているか。確保の見込みはあるか。

答 総務課長 庁内の事務職員は115人で12人の不足がある。経験者や年長者（59歳まで）を採用するなど柔軟に対応した結果、確保に近づいている。

問 12月議会で企画財政課長が提案した「地方創生本部会議」

は何回行われたか。

「役場内部の職員間の意見を集約できる体制づくり」の具体策は。

答 地方創生本部会議（以下「地創」という。）は昨秋より5回開かれ、うち4回はサステナ事業の予算事業内容について協議している（特別職と管理職）。職員間の意見集約については、係長級を中心に「地創プロジェクトチーム」を設置する。

問 職場環境をよくするための待遇改善策はあるか。

答 業務負担を減らし、働きがいを実感できるよう整備したい。今年度はハラスメント研修を実施した。今後はアンケートによる意見集約から取り組む。

答 町長 コロナ禍でイベントがなくなり職員間の交流も減った。担当職員、係長の声を吸い上げる体制がなかったため、今後はつくっていききたい。

問 職員の得意分野を把握し、その意に即した職場を配置する

ことができているか。専門的能力を伸ばしスペシャリストを育てる考えはないか。

答 副町長 資格や異動希望を考慮しているが、人員不足で希望通りにはいかない。事務分担から始めるが機構改革も考える。複線型人事もメリット・デメリットがある。技師採用も育てたあと退職するケースもあり難しい面がある。

問 旅費の緩和策と宿泊費の増額についてはどう考えるか。

答 出張時の前乗りと後乗りの緩和策については運用ですでに改善できているので変更する考えはない。現在1万1000円の宿泊費については、物価上昇や地方出張などを考慮し増額を検討したい。

民間クリニックの継続を

1月に突然岩渕クリニックが閉院になった。医師の死去によるものでやむを得ないことではあるが、閉院の影響は大きく、住民に困惑と心配をもたらして

いる。八丈病院の人的負担と患者の時間的精神的負担は大きいと同時に、民間のクリニックの継続を望む声は日に日に高まっている。町として、住民の要望にどのように応えたいと考えているか。

問 民間の診療所とどのような連携をとっていたか。

答 病院事務長 在宅からの入院と在宅医療（訪問・看護）を希望の方、介護度の高い方などの紹介を行っており地域医療の連携はできていた。

問 民間クリニックの継続の実現に何らかの支援ができると考えているか。

答 継承の希望がある医療機関と情報交換を行っており、連携は続けていく。



さなだ ゆきひさ 議員
真田 幸久

町役場の組織運営について

町 施政方針において、役場内部の立て直しのために職員間のコミュニケーションの活発化や職員間の意見集約態勢づくりに取り組むことが示されたが、対応のスケジュールや方法は。事前に、他自治体の取組例などの資料も提供しているがいかか。

町 副町長 職員からの意見集約について、毎年職員組合で要望をとりまとめるにあたり職員から自由意見を吸い上げていく。それとは別に「職員の能力・意欲の向上」を図るため、アンケート形式での意見集約について、実施に向けて準備をしている。検討には職員への業務

負荷が当然かかることでもあり、早期に具体的な方針や方向性の提示まで到達させるために、外部資源の積極的活用、お金をかけて進めるべきかお金をかけない範囲で外部資源を活用する方法もあるので、自力で方針・方向性をつくりあげるのか等を含め庁内での検討をしたい。一方、まだ内部でのコンセンサスを得ていない状況の中、いつまでに何をといった回答はできない。

町 町長と一般職員の一对一のコミュニケーションについて、職員側の心理的負担を考慮しているとの回答があったが、心理的負担を感じさせないようなコミュニケーションをどうすべきかから始めるべきと考えるがいかか。

町 当方は心理的圧迫感を与えていないと思っているが、受け手がどう感じるかの問題なので、アプローチの仕方を工夫していきたい。

DX（デジタルトランスフォーメーション）と行財政改革について

町 施政方針に、DXの活用・推進が示されている。DXは、新しいプロセス導入によって、住民の利便性向上や職員の業務効率化などの課題解決を図るトランスフォーメーション（変革・変容）が目的であり、デジタルは手段であって目的ではない。変容・変革のために、まずは行財政改革会議などを設置し、課題の整理を行うべきと考える。また職員不足の中、外部資源の積極的活用を行うべきと考えるがいかか。

町 副町長 令和2年から、事務事業共同化等に関する検討を東京都や各町村及び関係者により推進するため、「島しょ町村における事務事業の共同化等検討会」が設置され、各町村のシステムにかかわる業務を中心に細部にわたる業務フローの現状把握と分析が行われており、既にコンサルティング会社が活用

されている。また、令和6年度には東京都による町村支援として、業務プロセスの調査分析やデジタル化推進の検討というメニューを用意するということなので、都と相談をしている。

情報開示について

町 複数議員から各種会合への町長の参加について意義や成果などを示すよう求めていたが、実現されていない。何故できないのか、しないのか。

町 副町長 広報や八丈町HPにおける「町長のコーナー」については設置準備をしている。他の自治体首長の事例にもあるように、出張用務に限らず、島内での行事などへの参加も含めた情報提供にしたいと考えている。

町 議会提示される資料についてだけではなく、住民向けも含め、利用者目線が不足しているのではないか。

町 各課で工夫はしているが、概ね前例踏襲で作成している。改善に向け取り組んでいく。



あさぬま たかあき
浅沼 隆章 議員

水道事業の進捗と合理的な事業改善を

○法定耐用年数を超えている管と、耐震改修が行われていない管を合わせて何キロになり、その整備費用は概算数値でいくらになるか。また10年計画で行われている令和11年度に完了する計画の未整備老朽管更新の令和5年度までの進捗状況は。

○公営企業管理者 令和4年度末の導水管、送水管、配水管を合わせた総延長は、223・1キロ。そのうち、耐震化されていない管は148・4キロとなり、その未耐震化管のうちで、法定耐用年数を超過する管の延長は70・4キロ。耐震化率としては33・5%になる。令和

5年度においては、約2億1300万円の整備費用をかけ、約1・3キロの耐震化を完了した。

来年度、令和6年度から令和8年度まで3か年の耐震化計画として、導水管、送水管、配水管約4・9キロを、約7億5000万円で整備する方針。東京都の老朽管更新事業の補助採択要件が、10年間で管路総延長の5%以上を更新するものとされており、平成29年度時点での管路総延長224キロの5%である11・2キロを、令和6年度の事業計画2・3キロの更新によつて、達成できるので、計画どおりの進捗と考えている。

○水道事業のコンサルタント事業者が入っていると思うが、八丈町に対して大川浄水場建設にあたり水源からの配管改修、更新の相談がなかったのか。

○コンサルタント業者からの相談は特段なかった。町としても、水源から浄水場までの導水管などの老朽化については、改修の必要性を重々承知してお

り、経路は約1・6キロで、場所によつては重機が入れない部分もあり、また民有地も数力所あるため、地権者との調整、新経路の検討なども視野にいれると、着手までに相当の時間を要すると考えている。

他に次の質問をしました。

○効率的に工事を行うために八丈町は指定水道事業者と島内全域の管路図を情報共有し、守秘義務を徹底していくことがなされているか

○水不足が生まれている原因の特定と、対策について など

(詳しくはyoutube参照)

八丈町教育計画の状況と今後の方針について

○タブレット端末活用の効果と実績。

○教育課長 導入から3年が経ち、タブレット端末は文房具の一つとなつている。三小の子どもたちは抵抗なく自由進度学習を行っており、先日の方言大

会でも富士中や大中の生徒が発表のツールとして使いこなしていた。そのほか富士中学校の生徒が作成したホームページが日本ICT教育アワードの優秀賞などを受賞し、現在、富士中学校は生成型AI(人口知能)の学習を進めている。

○コミュニティスクールの進捗状況について。

○コミュニティスクール(学校運営協議会)の役割は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認することや、学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができること。その協議会委員の任命については、校長の意見を反映することになっていて、現在校長が人選を進めている。

三原小中学校は、三原学園として一つの協議会、その他の学校は、学校単位で協議会を設置する予定。八丈町は、6、7年度中に全校に協議会を設置することを目標に進めている。



かながわ たかゆき
金川 孝幸 議員

洞輪沢地区に設置予定の 津波救命艇の運用と有効 性について

津波救命艇は洞輪沢地区の住民に説明会は開かれ承認されたと思うが、設置後の運用などに多くの課題があると思うので質問する。

○津波救命艇の定員は25名だが、住民以外に帰省した家族やサーファアの乗れる余裕はあるか。

○総務課長 定員の25名は椅子の数で、スペースに定員を超えて乗ることはできる。

○津波救命艇へ避難を呼び掛ける防災無線はどのように運用するか。

○大津波警報が発令されたら防災無線で避難を呼びかけ、道路が寸断された場合に津波救命艇への避難を周知する方法を検討する。

○他の自治体の設置場所をグーグルマップで確認したら、設置は平坦な場所であらうが洞輪沢とは違う。今回の津波救命艇設置は道路の崩壊を想定

しているが、八丈島に近い震源では津波は数分で到達すると思われる。

設置予定の公衆トイレの横の駐車場は海までの高さは5メートルあり海岸はコンクリートと岩で、津波救命艇の強度は十分あっても、5メートルの高さから落下する衝撃に乗っている人は耐えられるのか。

大津波警報が出るとテレビでは一刻も早く海岸から離れ高台へ避難を呼びかけるが、町で作成したハザードマップでは設置予定の場所の津波の高さは5メートルを想定している。洞輪沢の多くの民家は5メートルの場所であり、高台から海側への避難は間違いではないか。

○設置場所は確定ではなく現在検討を進めている。

○津波救命艇に食糧や水の他にどのような物を何日分装備しますか。

○定員分の食糧など1週間分の他に応急医療具や予備の電池などを装備する。

○津波救命艇設置後に避難訓練を定期的に行わなければならないが毎年行うか。

○津波救命艇を有効に活用するために講習会や訓練など今後検討する。

○災害を想定して設置されるので何時でも使える状況にあると思う。いたずらや故意に食糧など持ち出され、いざという時に機能しないことも想定される。日ごろの点検や管理はどのように行うのか。

○製造者が示す管理マニュアルに沿って点検し品質性能の維持に努める。洞輪沢地区の方に協力してもらい、鍵の管理や備蓄品については調整を図りたい。

○津波救命艇により人命が助かった例は今のところないと思われる。本来に設置が有効なのか町の職員を設置した他の自治体に派遣して検証してから発注すべきではないか。

○町長 職員を派遣して検証したいと思う。

令和6年度救命艇購入予算

船体価格	約 1,000 万円
海上・陸上運搬費	約 1,000 万円



いわさき ゆみ
岩崎 由美 議員

消防本部事業について

10月15日に防災訓練が中之郷において実施された。

問 東京消防庁によれば、令和5年度の緊急車両の要請数は過去最高となり、特に高齢者による要請が増加していると伺った。救急車の要請状況は。

答 消防長 昨年の救急車出動件数は515件、うち医師が初診で軽症と判断したものは176件。このうち救急隊が救急搬送の必要性が低かったと判断したのは40件。ただし緊急搬送が適正かどうかを判断するものではない。

問 救急搬送要請の増減はどのような傾向があるか。職員に

負担になるようなことがあるか。病院の受け入れ状況はどのようなになっているか。

答 過去10年は横ばい。令和4年は過去最多で580件。平均すると480から490件。令和5年度若干の増加がある。高齢者の搬送が多い。病院の受け入れは、救急搬送が重なる場合もあるが対応できている。

問 消防本部の女性職員の仮眠室は快適性に欠けるのでは。今後の改善方針は。

答 消防は空港消防庁舎において自治体消防と空港消防を兼務。空港消防署の庁舎のため24時間勤務の職員が夜間に当直するような設計にはなっていない。現在消防職員数は27名、内2名が女性。仮眠室は男女別となっているがスペースがない状況。今後抜本的な改善を行う予定で、来年度設計の消防車庫に職員の仮眠室を設置する予定。

問 消防団詰め所女性トイレ整備の予定は。

答 来年度三根分団の女性トイレ

の増築を行う。大賀郷分団に5名、中之郷には1名女性が在籍。今後検討する。

再生可能エネルギー政策の今後は

八丈町基本構想「都市基盤」の中では「再生可能エネルギー自給率向上を目指し、開発事業者との協働により、新たな地熱発電所を推進」とある。

問 2017年よりオリックスが事業を開始し、2021年に生産井、還元井を掘削したものの生産井の能力を確保できなかった。現在の進捗状況は。

答 企画財政課企画情報係長 地熱開発については深い深度や硫化水素に対応できる掘削事業者が国内でも限られおり5程度とのこと。昨今の社会情勢で他の地域でも地熱開発の需要の高まりがあり、調整が難航している。オリックスとしては早期掘削に向けて複数の事業者と調整を行っているとのことだが掘削時期の確定には至っていない。

問 今後地熱発電以外の再生可能エネルギー施策を検討することはあるか。

答 地域再生可能エネルギー基本条例では地熱以外の再生可能エネルギーも活用対象としているが、今はオリックスの地熱開発を優先させていく方針に変わっていない。ただし国や東京都で再生可能エネルギーの取組みをしており、そのような動向を見ながら、地熱以外のものについても連携、協力する可能性もある。

■その後、3月28日の全員協議会においてオリックスから令和6年度中に掘削できる可能性のある候補先が見つかり協議を進めているとの報告があった。



やました たくみ 議員
山下 巧

多目的小ホールの建設について

岡おじゃれホールが完成してから10年、文化活動の盛んな八丈島では、使用頻度も高く島外からも高く評価されている。しかしながら大きすぎるために小規模のサークルのスポーツ、柔・剣道、音楽の発表会に使える場所がない。住民からの要望もあるので公民館や学校の改築建築時に、併設するなど小ホールの必要性があると考えてるが、町の考えを問う。

〔答〕教育課長 現在のところ多目的小ホールを新たに設置する事業計画はない。例えば、音響に配慮され、運動も可能な設備を公民館や学校施設に併設するとなると、おじゃれホールより

一回り、二回り小さいホールであつても高額な設備投資が必要になるのと、施設に対する小ホールの占める面積が大きくなるため敷地の確保の問題も出てくるので実現はむずかしい状況。

また、音響には目をつぶって運動できる施設となると、公民館の集会室や学校の体育館でカ

バーできると思われるので、音響に配慮されていて、運動もできる施設の設置は、たいへんむずかしいと考えている。既存の施設を活用いただきたい。

岡おじゃれホールの小規模版を作ってほしいということではない。

八丈高校には視聴覚ホール、

格技棟（現・武道場）があるが、生徒さんが校内にいる時間帯は貸し出しがされない。おじゃれホールの後ろ側に、島外からのスポーツ・文化団体の合宿の受け入れのために必要な小規模施設を作ることが理想。おじゃれホールは大きすぎて使えず、整備を要望する。

〔答〕要望に関しては検討する。



八丈島警察署道場・武道大会



八丈高校格技棟（現・武道場）・武道大会



おきやま のぼる 議員
沖山 昇

八丈町防災訓練について

令和6年能登半島地震、平成23年東日本大震災では、多くの方が罹災された。八丈島も昭和47年に最大震度5と6の地震が発生。昭和50年13号台風は、瞬間最大風速67・8メートルを記録し大災害となった。南海トラフ地震は2030年～2040年に起こると予想されている。

過去に災害を知り、忘れないために、写真やデータを展示し、日頃の備えのきっかけやヒントとなる防災訓練を。

総務課長 過去の災害を知り、忘れないために写真やデータを展示し、災害の恐ろしさを感じてもらおう取り組みは、過去の災害を知らない方、また八丈に移住されて来た方の意識向上

に役立つ。防災訓練などで住民に伝える方法を、防災会議においても検討する。

以前、被災地支援に町職員を派遣した。その時の経験を伝えることも取り入れてほしい。被災時の「自助」への備え・知る・忘れないが重要。

東日本大震災の被災者に、災害の講演をやってもらった。その講演を聞いて、気を付けなければという気持ちになったと思う。「自助」の大切さを伝えるよう取り組む。

アスベスト調査及び含有廃材除去工事について

アスベストは、吹き付け材や保温材、天井板やビニル床タイル等の内装材に利用されていたが、健康障害の可能性があるため使用が禁止された。

家屋などの解体の際は、調査と除去工事が必要で、多額の費用が所有者の大きな負担。東京都の補助制度は天井板やビニル床タイルなどは対象外。家屋

の解体に対する仕組みを考えてほしい。

住民課長 アスベスト建材は、吹き付け石綿（レベル1）、石綿含有断熱材など（レベル2）、石綿含有仕上塗料材や押出成形セメント板など（レベル3）は、大気汚染防止法等の法令の規制対象で、飛散防止対策として、一般住宅の改修や解体、日曜大工も含みすべてが、有資格者の事前調査が義務付けられている。

特別管理産業廃棄物扱いとなるレベル1とレベル2の廃棄には、保管から処分まで、特別な注意を要するほか、日曜大工によって排出されるレベル3の一般廃棄物も、当町のクリーンセンターでは、焼却処理が困難。産業廃棄物と同様に有資格業者に委託するなど、個別に処理することになっている。

事前調査や工事届の対象窓口となっていない島嶼部及び多摩地域の町村を除き、令和5年4月現在で、自治体により助成対象に違いがあるが、共通するところでは、レベル1に該当する

場合助成制度がある。その区市の助成事業に東京都が補助する制度がある。

建物解体は、東京都が直接所管だが、直接の助成制度はない。建物解体に伴う調査及び除去工事並びに廃棄処理費も八丈町単独で処理ルートなどを確立するのは困難で、現時点では、助成困難との回答となる。

どの島嶼町村も助成制度を有していないが、環境部会などで情報を共有し今後も注視していく。

軽微な工事で壁に穴をあける場合でも調査と飛散防止対策が必要で、多額の費用がかかる。対策を考えてほしい。

事業所には影響があると認識、都環境局に働きかけ、事業所向けに講習会を開催した。2月の島嶼部環境部会で協議した。島嶼部全体の廃棄物行政にとってアスベストは重大な影響がある。引き続き島嶼部の課題として検討する。



あさぬま あおみ
浅沼 碧海 議員

町長施政方針について

問 令和6年度、町として特に注力している政策は。

答 町長 職員採用を一番に取り組んできたが、対応策を考えなくてはならない。人員不足の中でも町役場の機能を低下させないために、庁内の組織機構改革を行うことで行政課題に的確に対応し、施策の推進に適した効率的な事務執行体制を整えていきたい。

問 任期中に成し遂げたいことは。

答 人口減少が進む中、将来を見据えた、公共施設の適正な配置計画に取り組みたい。一番は学校。3～4年で成し遂げられるとは思えないが、方向性を示せるよう、充分に話し合っ

後の配置を目指していきたい。

居住問題について

問 移住者の居住の問題に対し、町の取り組みは。

答 副町長 八丈町HPに「八丈物語」というコーナーを設け、移住・島の暮らしに必要と思われる準備を案内している。企画財政課に窓口を設け、直接お話ができる体制もとっている。

問 準備中の「八丈物語」の第六章「住居」内の不動産のページはどのようなサイトになるか。

答 民間の不動産屋とヒアリングを行いながら連携についての意向を確認している。空き物件は500件前後あるが稼働率は70%ほどだという。理由は空き部屋は古く改修が必要。稼働率を上げていければ提供が可能になるのではないか。

問 令和5年度の相談件数、移住実績は。

答 令和5年度は来庁しての相談は20、移住相談系のイベント

で20件あった。電話やメールによる問い合わせは月4～5件ほど寄せられている。基本的に「八丈物語」を利用して検討をしていたりするようにしているため、移住に至ったかどうかの追跡まではしていない。

問 町営住宅や教職員住宅の空き部屋の有効活用を検討はないか。

答 町営住宅は2024年3月5日現在で総戸数が425あり、48戸空きがある。公営住宅法や補助金などの利用もあり、物件によってはその返還などの問題をクリアする必要がある。民間業者との兼ね合いもあるがバランスを見ながら検討の余地は残したい。教職員住宅は東京都の教育委員会の所管。移住者への提供はむずかしいのと。

離島留学制度の見直しについて

令和6年度、都立八丈高等学校の入学人数が32人と伺った。40人を切るとクラス減に陥る可能性が高い。

問 離島留学制度にて、民宿などで複数人を受け入れる体制を取れないか。

答 教育課長 宿泊や食事の提供だけでなく、保護者の代わりとして人数分の学校対応も行う時間を確保していただくことになる。責任を持って、卒業まで面倒を見ていただける方がいれば、複数の生徒の受け入れも可能。

問 伊豆諸島同士での離島留学は認められていない。制度の改善はできないか。

答 離島留学制度は内地に在住の中学生が保護者同居でなくとも、通学でき、離島の高校の活性化に寄与できればという制度。趣旨が異なっており、人口減に対応する島嶼と生徒の取り扱いにならないよう配慮する必要があると考えている。

問 ホームステイ先の金額なども含め、改善の考えはあるか。

答 この制度自体が八丈島の人口増に繋がるかは検証が必要。料金などは昨今の物価上昇にともない令和6年度から11万5千円と1万円上げる。

八丈町議会 島内視察報告

令和6年1月15日
全議員参加

(1) 町営バス事務所・車庫

快適な環境整備

令和5年10月、二度の工期変更の末、町営バス事務所・車庫が完成した。工費は、建物に2億3472万円、移転補償に6723万円の施設となった。

バス3台が納車可能な車庫、事務所、ドライバーの休憩室、バスガイ



(2) 大川浄水場

総工費11億円で

令和5年、総工費約11億円をかけた大川浄水場の施設が完成した。

ドの休憩室など、建物全体を視察したが、以前とは比較できないほど快適な環境が整備され、今後の八丈町の観光拠点として、ドライバー、バスガイドの皆さんの活躍に期待したい。



我々の生活になくはならない大切な「水」がどのような経路で各家庭に配水されているか、またそのために同施設はどのような役割を果たしているかを視察した。

担当者より、配水経路について次のような説明を受けた。

水源系統は、大川の表流水を八丈町三根成沢山地点の取水ぜきから日量2030立方メートルを取水している。その水を既設沈殿池に導き、「薬品沈殿、急速濾過」による浄水方法を「次亜塩素酸ナトリウム、凝固剤の混和、膜ろ過」へ変更。

その後、日量1800立方メートルを根



(3) 空港ターミナル駐車場

駐車台数415台に

令和3年11月から令和5年3月にかけて、空港ターミナル駐車場の混雑緩和のために、278台から415台の車を駐車可能にするための改



田原浄水場から大川配水池へ送水される浄水日量770立方メートルを合わせて一日最大2570立方メートルを送水管によって第1配水池、第3配水池、片瀬ヶ首配水池に送水し、各配水池系統の給水区域に配水している。

この浄水場から配水されている水を、一滴も無駄にすることなく大切に使用していきたいものである。

修工事が行われた。

駐車台数の確保だけでなく、駐車場内の交通事故防止のため、横断歩道付近の道路の傾斜の設置や段差の解消、また混雑時の一時的緩和対策として路肩の活用、更に、カラー表示を用いるなど様々な対策が行われていた。

しかしながら、駐車場内の案内表示がわかりにくいため逆走する車があったり、歩行者との接触の危険性などが散見されたため、さらなる改善を要望した。

(報告者 浅沼清孝)



質疑より

●東京宝島サステナ事業

末吉多目的交流施設について

奥山幸子議員 観光DXのエコツーリズムについて、末吉の多目的交流施設展示室と、クジラに関する調査内容、町の今後の対応の説明を。

企画財政課企画情報係長 施設の運用目的の一つに探究活動があり、エコツーリズムだけでなく、住民と大学生が交わる文化活動のようなものも進めていきたい。

副町長 離島振興関係の交付金や環境省関連の予算を使いながらクジラ関係の調査を行ってきたが、調査結果情報を集約し、エコツーリズムを案内するメニューの一つとして展開していきたい。

岩崎由美議員 エコツーリズムに関して、ビクターセンターとの連携・

役割分担についての協議状況は。クジラに関して、漁業との関係からどう考えているか、調査に関する都や国の関与についての働きかけを。

企画財政課企画情報係長 エコツーリズム推進にあたって、まずは島民に自然の魅力、素晴らしさをわかってもらふことに注力し、エコカレッジを開催している。来年度の末吉展示室完成後のプレオープン段階で、ビクターセンターと情報共有を進めていきたい。

副町長 クジラの漁業への影響含むクジラの生態に関する調査は、いったん止まっている状況。当事業において、クジラの来遊状況を漁業者に情報提供することなども検討しながら、技術的な困難から実現している

い。調査は本来、東京都や国などが担うべき分野であり、研究機関などと協働していくことを考える必要がある。5月の要望活動の際に、議員からも東京都産業労働局などに要望をしてほしい。

浅沼隆章議員 末吉の交流施設への来場者数見込みと、移動手段確保の考えは。

企画財政課企画情報係長 来場者は年間4000人程度と考えている。移動手段については、路線バス利用で末吉に到着後、温泉を楽しみ、交流施設を訪れ、電気自転車(貸し出しを行う自転車事業実施予定)で末吉の自然を味わってもらうといったことを考えている。

東京宝島サステナブルアイランド創造事業とは

町が、みずほフィナンシャルグループと協定を結び進めている東京都が実施する事業。島しょ町村の意欲的な公民共創の取り組みを支援することを通じ、島しょ地域の課題を克服し、持続可能な地域社会を創出するという目的で、事業期間が令和4年度から3年間、補助上限5億円、補助率は100%。デジタルを活用した各種活性化事業や社会インフラ整備などの課題解決を図るというもの。

【事業内容】「防災・減災DX」「行政DX」「水産業DX」「観光DX」「データ利活用」の5つの分野でDXを推進していくことが掲げられている。例えば「防災・減災DX」では雨量計などの防災IoTセンサーの設置、定点カメラの設置などがあげられており、各分野でそれぞれ計画されている。

教育長、企業管理者らの給与を引き下げる条例改正案

反対多数で否決

町が提出した教育委員会教育長の給与及び旅費並びに勤務時間、休日、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例は、採決の結果、反対多数で否決された。

改正の内容は教育長と公営企業管理者の給与を月額65万円から64万円に引き下げるもの。提案理由について町は、議員並びに町長、副町長及び教育長の報酬等の額について、二年に一度八丈町特別職報酬等審議会に諮問を行っており、同審議会の答申に基づいて教育長、公営企業管理者らの給与を改正する必要があると提案を提出したと説明。同審議会における主な引き下げ提案理由は類似団体との比較とした。

【質疑】

真田幸久議員 物価高が言われている中、なぜこの局面で減額する必要があるのか。他の自治体との水準比較では単なる横並びであり、八丈町独自の理由があるのか。

岩崎由美議員 他の自治体との比較に際し、人口規模だけではなく、物価状況なども勘案したのか。

浅沼隆章議員 給与引き上げの必要性の話が出るような人員確保が難しい状況も考えた上での減額提案か。

【反対討論】

真田幸久議員 一般住民に対して物価高対応の施策を講じている中、なぜこの時点で特別職の給与を下げるのか。人口規模別で教育長などの仕事で本当に大きな差があるのか。物価高や、一般職員含め人員確保が困難な状況下での引き下げには納得しかねることから反対する。

【採決の結果】

賛成1、反対8

賛成 奥山幸子
反対 真田幸久

浅沼隆章
山下則子 金川孝幸

沖山昇 岩崎由美
浅沼碧海 山下巧

町が議会に経過報告

2月2日に発生した中之郷埋立処分場の火災について、令和6年第一回八丈町議会定例会にて、消防長・住民課長より3月5日に現時点での状況報告と今後の方針。3月28日に鎮火、および伐採木の処理方法について報告された。

◎3月5日 消防長 2月後半

の三連休あたりから日中の放水活動がほぼ必要ない状況が続き、（埋立地の）重機での掘り起しを主に実施していた。地中に単管を打ち込み、温度・一酸化炭素濃度の測定を行っているが、20度前後の安定した数値を継続しており、一酸化炭素も検出されていない。活発な現象が発生している状況ではないので鎮火判断をする時期にきたのではないか。

住民課長 住民生活に多大な影響を与えた事をお詫び申し上げます。今後中之郷埋立処分場は伐採木の受け入れは不可とする。水質調査については毎年6月に実施していたが令和6年度は4

中之郷埋立処分場の状況、伐採木の処理方法について

月に早急に行いたい。結果は5月連休後報告になる予定。再発のリスクもゼロではないので、シルバー人材センターで午前午後と見張りを行っていた。今後の方針としては、伐採木の受け入れは有料となるが有明興業に依頼したい。旧クリーンセンター跡地に新リサイクルセンターを建設を計画している。

◎3月28日 消防長 27日13時36分鎮火となった。継続して一酸化炭素の検出がないのが判断理由。発酵熱と思われる温度が若干高い箇所が一部ある。火災の危険がある温度ではないと思うが、住民課と連携し、しばらくの間現場をモニタリングしていく。火災の原因調査の実施日は未定だが、八丈島警察署と合同で実施する予定。

住民課長 3月28日に条例改正が議決され、4月1日より伐採木の処理はクリーンセンター、八形山リサイクルヤード、有明興業南原処理場にて行われる。

※詳細は広報はちじょう4月号、および八丈町住民課HPを参照

発行人 八丈町議会議長 山本忠志
編集 議会だより編集委員会
委員長 奥山幸子 副委員長 山下則子
委員 真田幸久 浅沼碧海
〒100-1498
東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2
tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437
メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

解剖学者であり作家でもある養老孟司氏は、「知るとは、自分が変わること」、「『私は私』で変わらない、一貫した『同じ私』がいるなんていうのは思い込みで、人は刻々と変わっている。」と語っています。このことは個人だけではなく、地域や社会にも当てはまることではないでしょうか。知ることは変わること、変えることにつながります。

八丈町はどうでしょう。改善を示してはいるものの、町が情報の開示・発信をさらに進め、住民も知ろうとすることで、住民が変わり、町が変わっていったほしいと思います。

(真田幸久)

Pâtisserie & Boulangerie Pamon きたうらゆう 北浦祐さんと まみ 麻美さん



八丈島で生まれ育った祐さんは子どもの頃からケーキ・お菓子屋になりたいという夢があり、クッキーなどを日頃から作っていたそうです。

高校生の時、「日本菓子専門学校」に行きたいという明確な目標を持ち、希望通りに進学。「いつかは島でケーキ屋を」という道筋も立てていたそうです。

専門学校卒業後は、群馬県のケーキ屋に就職。4年目には3号店オープンの店長に就任されます。島での開業に向けて「ケーキは特別なもの。パンは日常品」という視点から、就職後は本格的にパンの勉強も開始。午前はパン、午後はケーキづく

くりの腕を磨きます。同時に仕入れ先などの人脈も築いていかれたそうです。

奥様の麻美さんは専門学校の同級生。就職先は東京でしたが、結婚を機に群馬に移住。その後一緒に八丈島へ。島への移住、お店を開くことに関しては大賛成。不安はなかったそうです。

その後満を持して、4年前に帰島。2022年4月に「Pamon」をオープン。

「島でお店を営む」というひとつの夢を実現させた祐さんの子どもたちへのメッセージは「諦めなければ実現できる。そのためにどう動くか。叶えるためのシナリオをどう描くかが大切」。町へ対する要望は、「物資の運賃補助をお願いしたい」とのこと。離島でお店を営むことのむずかしさも、同時に伝えていただきました。(浅沼碧海)

八丈島のパン屋さん

おおさわちから 製菓 やたけ 大沢力さん

来年開業100年を迎えるやたけさんの始まりは、なんとサイパンから。力さんの父・新八さんは移民政務でサイパンへ渡り、そこで「大澤菓子店」を開業します。

その後八丈島に戻り、お店をオープンするも59歳で他界。四男の力さんが19歳で跡を継ぎます。力さんは店を1年休業し、東京で修行。帰島して「製菓 やたけ」を再開業し、現在に至ります。

力さんは朝の1時半から仕込みを始めるとのこと。製作所で直売も行いますが、たくさんのパンを全島に届けたいとの思いから、お店はやらないそうです。

後継者については、今現在、長男はパン屋を経て、今は別事業を。次男は洋菓子を専攻し国内、海外で仕事をしているそうで、「島にもやれるスタッフはいてくれる。いろいろな経営の方法もあるので、仕事は残していきたい」との思いを語り、心配はしていないとのこと。

「島と世界を同時に見て、島の位置を感じてほしい」自分を常に島人ではなく、地球人と意識しているという力さんからの島の子どもたちへのメッセージです。

町に望むことは、「若い人たち（特に島出身）に島の情報をどう伝えられるか。特に求人情報を整理して掲示することで、今の八丈の需要が分かる。20年先の未来のために、とっかかりを作れたら」。島や現在だけにとらわれず、世界や未来を見据える視点の広さを持つ、力さんの言葉でした。

(浅沼碧海)

